

高潮

<前提条件>

- ・台風の規模：昭和34年9月に上陸した伊勢湾台風クラス（940hPa）
- ・台風の進路：市川市の被害が最も大きくなる進路
- ・潮位：東京湾千葉港の朔望平均満潮位を想定
- ・海岸保全施設：正常に機能

（国土交通省港湾局が平成21年4月に公表）

この地図は、昭和34年9月に上陸した伊勢湾台風クラス（940hPa）の巨大台風が襲来し、被害が最も大きくなる進路を通過した際に高潮が発生した場合の浸水範囲とその程度を示したものです。浸水の深さは地盤の高さを基準にしています。

水の深さ

- 水の深さが5.0m以上の区域
- 水の深さが3.0～5.0m未満の区域
- 水の深さが0.5～3.0m未満の区域
- 水の深さが0.5m未満の区域

行政界

- 避難場所
（災害から一時的に身を守る屋外の広い場所）
- 避難所
（自宅生活できない人が一時的に避難生活をおくるための施設）
- 校庭貯留
（河川の氾濫を防ぐために、校庭等に降る雨を一時貯留する施設）
- 大型土のうステーション
（雨の状況に応じて随時開設します。開設する場合は、メール情報配信サービス等でお知らせします。）
- 地域型小規模土のうステーション
（いつでも土のうを持ちだせます。50個の土のうが入っています。）
- 防潮施設
- 道路冠水注意箇所
（道路や鉄道の下を通るアンダーパスなど道路が周辺より低く、大雨の時に冠水する可能性がある場所。）
- 福祉避難所
（要配慮者など、一般の避難所で共同生活が困難な人が安心して避難生活を送るための施設。避難所と同じく、避難者の状況などにより必要と判断された場合に開設される。）
- 近隣自治体避難場所等
（近隣自治体が避難場所などとして予定している施設）

想定最大規模

<前提条件>

- ・台風の中心気圧910hPa（昭和9年9月の室戸台風級）
- ・台風の移動速度73km/h（昭和34年9月の伊勢湾台風級）

平成30年11月に千葉県が公表した想定最大規模の浸水想定区域図は、令和4年6月10日に水防法に基づく区域指定が行われました。この浸水想定区域図は、概ね1,000～5,000年に一度の発生頻度であり、台風のルートや規模、河川・海岸施設の破壊という最悪の条件下で想定したものです。

浸水深の目安

